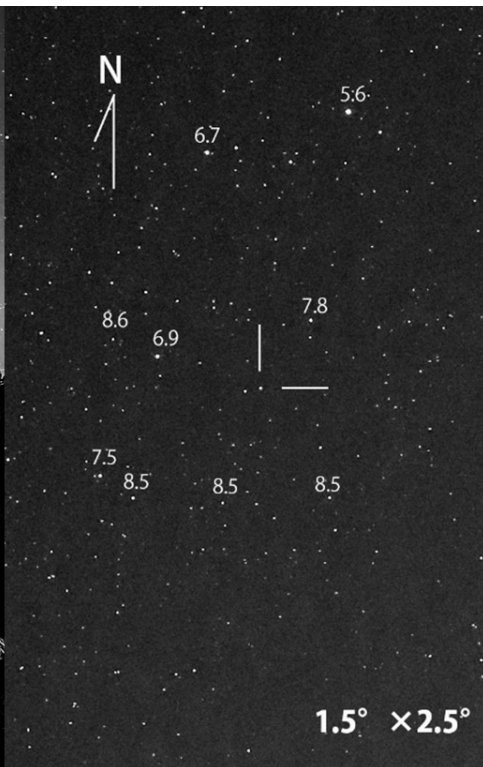


天文教育 5

2018

Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy



〈投稿〉 「移動プラネタリウムネットワーク」始動／世界が福岡に
やってきた！／IAU100 (2019 年) に向けて

〈報告〉 天文教育フォーラム報告／Astro-HS 全国フォーラム 2018
開催報告

〈その他〉 2018 年天文教育普及研究会年会のお知らせ ～第三報～

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクトには英文も付けてください。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事。分量は刷り上がりで6～10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告、また天文教育・普及に関する授業の実践例など。分量は刷り上がりで2～4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください（写真のみでも構いません）。
7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。

・ **締め切り**は1は原則として奇数月末日、2～7は偶数月15日。投稿先は post@tenkyo.net です。

・ **広告掲載**を希望される方は事務局 (jimu@tenkyo.net) までお申込みください。掲載料はB5判1ページ ¥20,000-、半ページ ¥12,000-、1/4ページ ¥7,000-、チラシの折り込み ¥20,000-です。

※本誌に掲載された記事は、当会 Web サイト (<http://tenkyo.net/>) にて PDF ファイルの形で公開を予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡をお願いいたします。

なお、2014年9月号から、当会会員に対しては会誌発行後に速やかに、パスワード制限をかけた形で閲覧できるようにし、発行から1年経過後にパスワード制限を解除して、広く一般に公開いたします。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・ 原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・ 執筆用のテンプレートがホームページ (<http://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします（執筆上の留意点なども記しています）。
- ・ 十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・ 提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・ Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・ 原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の言葉

矮新星の新星爆発

22018年5月4日19時45分(左 24mm, F=2.8),同日
20時30分(右 135mm, F=4.0)
鍋倉高原(長野県飯山市), 撮影者:大西浩次

2018年4月29日20時20分頃、満月近くの下で、ペルセウス座に突然6.2等星の星が出現した。発見したのは三重県亀岡市の中村祐二さんである。この発見位置には、ぎょしゃ座との境界付近で、ペルセウス座 V392 と呼ばれる15等から17等ほどを変光する「矮新星」の存在が知られていた。同日、直ちに、北海道なよろ市立天文台と北海道大学のグループによる1.6mピリカ望遠鏡を用いた分光観測が行なわれ、新星爆発の特徴を持つことが分かった。さらに、翌日、ガンマ線宇宙望遠鏡「フェルミ」での観測によって、こ

の天体の位置に新たなガンマ線を放つ天体が出現したことがわかり、ペルセウス座 V392 が新星爆発したことが確実になった。この発見前日、夕暮れの空に沈む冬の星座たちを撮影した私は、そのときの写真をチェックしたが、8等星より明るい天体は見つからなかった。一方、その後は天候が不順で新星を確認できなかった。ということで、やっと晴れた5月4日に8等星の新星を捉えることができた。ペルセウス座 V392 は、白色矮星と暗い伴星との連星系と考えられており、白色矮星の周りの降着円盤の不安定性で数ヶ月での2～3等級の増光を繰り返してきた。この現象で蓄積した水素が核爆発を起こしたのが今回の増光現象である。数万年から100万年に一度の現象と考えられる。これまで知られていた「矮新星」が初めて「新星」爆発を起こした現象だ。今後の観測が大変興味深い。(大西浩次)